

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎の理念のもと、その人らしく穏やかに安心して生活して頂けるよう支援し、日々実践・見直しを行っている。毎朝朝礼時に「基本理念」「介護サービスの基本方針」「品質方針」を唱和し、常に頭にいられている。	法人共通の基本理念を朝礼時に唱えている。また、各ユニット毎の理念を作成し共有と浸透を図る事により理念の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・外掃除・地域の行事に参加し、顔なじみの関係を築けるよう努めている。挨拶等積極的に声掛けをおこなっている。児童や近隣の方からお声を掛けて頂く事も増え世間話をする機会が持てている。	地域との交流の中で認知症への理解を得て相互関係が築かれており、買物や散歩に出掛けた時、気軽に声を掛けて下せる機会も増えている。秋祭りの子供神輿や七夕祭りなど、地域行事へも積極的に参加し、交流を図っている。また、手芸ボランティアとして地域の方に参加いただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民とかかわりをもってもらい認知症を理解してもらえるよう取り組んでいる。また、地域児童会と交流をもち、事業所で出来る協力を申し出ており七夕祭りは場所を提供し児童・入居者とともにやる行事となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をとおして地域に溶け込めるよう取り組んでいる。行事等も報告し、もちつきや七夕祭り等の行事に参加頂きご協力頂いている。民生委員の方々には、手芸ボランティアにも来ていただいている。	市の担当者、地域住民代表、知見を有する方、ご家族、入居者が参加され、頂いた貴重な意見や提案をサービス向上に役立てている。会議では、入居者のホームでの状況や事業所の取り組み、第三者評価の受審結果等の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当の方には連絡を取り何かあれば報告している。又グループ連絡会に入会し連携に努めている。月に2回介護相談員の訪問もある。	市の職員に運営推進会議に参加して頂き、事業所の状況や取組を相談し、助言、指導を受けている。また、市から派遣される介護相談員に月2回訪問してもらい、入居者の傾聴を図ってもらっている。管理者はグループホーム連絡会に参加し、情報交換や研修会への参加を通じて、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や意見交換を行い「どのような事が身体拘束になるか？」など理解を深めている。また各部署より1名ずつの委員を選出し1カ月に1度身体拘束の会議を行い、事例検討会や内容を全体会議・ユニット会議時に報告し、しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に向けた方針を明示し、何が拘束であるかを職員が理解し、実践に役立てる取組みを行っている。施設前の道路がバスの通り道になっており、車の通行も多いため、施錠をすることにより安全確保に努めている。やむを得ない拘束については、ご家族に同意を頂き、必要最小限、短期間になるよう努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、自身のケアの振り返りや職員間でも注意をし、話し合う機会・防止に取り組んでいる。	虐待防止について、ホームで定期的な研修を実践し、日常生活支援で不適切なケアがなされないよう努めている。現在ホームでの虐待はないと理解しているが、虐待であるか判断がつかない場合は、職員間で話し合いの場を設け、虐待防止に取り組んでいる。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者様がられる為、研修に参加し理解を深めている。全職員ではないが見識を深めるよう努力している。	現在、成年後見制度を利用されている方がられるので、職員全員が権利擁護についての理解はできている。ご家族からの質問に答えられ、適切な支援が行えるよう、勉強会を検討している。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、必ずご家族様に重要事項説明書をもとに丁寧に説明するようにしており、質問等受けた場合も説明を行い納得の上署名・捺印して頂いている。	契約書、重要事項説明書に従い、契約時に説明を行い同意を得ており、計画作成者が疑問に答えている。契約書、重要事項説明書に変更があった時は、書面を作成し同意を頂いている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様には意見・要望をその場その場で直接言って頂けるようお願いしており、またセンター側に言いにくい場合は、当法人本部や公的苦情受付機関をお知らせし、質の向上に繋がるので遠慮なく言って頂けるようお願いしている。また要望でなく苦情として受け、運営に反映させるよう取り組んでいる。	ご家族訪問時に、話しやすい雰囲気づくりを行い意見や要望を出しやすいう努めている。出された意見や要望については即日対応を心がけている。苦情箱の設置はしていないが、契約時に公的な苦情受付機関や直接本部に伝えることができる旨をお知らせしている。	苦情箱を要望箱として設置するなど、入居者、ご家族がより意見を出しやすい環境づくりを工夫されることを期待したい。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ではないが定期的エリアマネージャーや本部の社員が施設を訪れ、意見や提案を聞く機会を設けている。また個人面談は最低年1回は設け、話し合いセンター運営に反映している。	本部の社員により個人面談の機会を設け、職員からの意見や提案の把握に努めている。ミーティングでは利用者個別の支援方法について職員の意見や提案を反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度・状況を把握した上で個人面談をおこない、身分変更・給与の見直しを行い、研修等の参加も促し、向上心を持ってもらえるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じて研修を勧め、また掲示して参加者を募集し、介護力向上に向けた取り組みを行っている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市グループホーム連絡会に入会し、意見交換や共通及びそれぞれの課題の討論会や交換研修・勉強会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの間に、入居希望者の状況把握の為に、2～3名で訪問しご利用者様・ご家族様のそれぞれに別れてお話を伺うようにしている。また他事業所や当DS・SSご利用の場合は、了解を得た上で情報提供を頂いている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に困っている事・不安な事はおおむね把握出来るよう、お話を伺っているが、その後の電話や来所時にもなるべく傾聴する機会を設け、信頼関係が結べるよう努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時に相談内容を聞かせて頂き、その上で当センターでの出来る事・出来ない事等を説明し、ご理解頂けるよう努めている。その上で他のサービス利用も提案している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、料理や家事・昔ながらの知恵や風習等を教えて頂き、職員も家族の一員として日々の生活を営んで頂くよう関係を築いている。また、人生の大先輩である利用者様に悩みや相談に乗って頂き、アドバイスを頂いている。		
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際、介護記録に目を通して頂き、日々のご様子をお伝えしている。長期来所されないご家族様には電話にてご様子をお伝えしている。また行事などにも参加して頂けるようにお声をおかけしている。参加頂いたご家族様は他入居者様への関わりも持って下さる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	従来の関係が途切れないよう、友人・知人が来所された場合、居室・リビング等でゆっくりと過ごして頂けるように努めている。また訪問のあった時は家族様にお伝えし家族様よりお礼の連絡をされる等よい関係が続けられるようにしている。	知人、友人の来訪時にこれまでの関係が途切れないよう支援するよう努めている。馴染みの場所へ行くことは要望がないため、現在は実施されていない。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間で気の合う方・気の合わない方を職員全員で把握し、席の配置や家事をして頂く際のグループ分け等の配慮をしている。利用者様同士で関わり合い・支え合える関係作りに努めている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療等の理由で退居された方のお見舞いに行ったり、他施設の職員からの問い合わせにも答え、その方が生活しやすい環境づくりに努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と何げない会話の中で暮らし方の希望・意向を把握し、申し送りやカンファレンス・ミーティング等を行い、「利用者本位」を基本に検討している。	ご家族からの情報や、入居者と個別に話をする機会を設け、その様子から思いや希望の把握を聞き取り、反映できるよう努めている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご利用者様・ご家族様から情報を収集し、職員間で情報を共有している。また、思い出のあるもの・なじみの物をお持ち頂くようお願いしている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に介護記録や連絡ノートに目を通し、口頭での申し送りが徹底して行い、現状の把握を行っている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様から情報収集を行った上で職員間でカンファレンスを開き、介護計画を作成している。モニタリング・評価を行い見直しや修正を行っている。	入居者・ご家族から要望を伺い、アセスメントを実施し計画作成担当者が介護計画を作成している。評価は介護計画に基づき実施しており、計画的波直しに反映させるよう努めている。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録・医療機関受診記録を記録し、日々の様子やケアを行う際に工夫した事等を記録しカンファレンスの際の見直しに活かしている。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様のニーズに可能な限り応えるよう取り組む事を心掛けている。利用者様がご家族様と居室で家族水いらすでの場合やリビングで一緒に食事をされたりする事も支援している。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に買い物に出かけた時に利用者様に商品を選んで買い物し支払いをして頂き地域の方との関わりを持ってもらう等の支援を行っている。また、地域児童会との交流も行っており、地域の協力も仰いでいる。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様が希望し、かかりつけ医に受診できるように支援している。また、センターかかりつけ医以外のもともとのかかりつけ医との連携をとり医療が受けられる支援を行っている。	定期的に往診する内科と歯科をかかりつけ医にしてもらっているが、入居者、ご家族の希望する医療機関があれば受診できるように支援しており、ご家族に通院介助をお願いしている。連携をとっている整形外科があり、緊急時等は職員が付き添い支援している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や事業所内のDS・SSの看護師にも気になる事は積極的に相談し適切な対応が出来るよう支援している。かかりつけ医にもすぐに相談する様にしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、担当Dr.看護師とのカンファレンスに参加し情報交換を行い、ご利用者様・ご家族様が混乱されないよう密な関係を気づくよう努めている。入院先が近くであれば職員が面会に行き、利用者の状態を把握すると共に病院関係者とも顔なじみになるようにしている。	入居者やご家族の不安の軽減に努めるとともに医療機関関係者と早期退院に向け、情報交換を行っている。また、退院の日程が1カ月前後で、経口からの食事摂取ができれば受け入れは可能である。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談・入居時よりターミナルについて話し合い、当センターで行える事・行えない事を説明し、またかかりつけ医・看護師・担当CMとも話し合いを行いチームとして支援出来るよう取り組みを行っている。	契約時に重度化や終末期における支援方法について説明を行いご家族の意向を確認している。重度化が進行した場合、かかりつけ医を交え方針を話し合い、支援に取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が急変・事故発生時に対応出来るよう、施設内研修・支社内研修・消防の救急救命の研修をうけている。また、その都度対応の仕方を看護師・経験のある職員や介護力向上委員会の職員が指導するよう心掛けている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を利用者様・職員ともに行い、避難場所の確保をおこなっている。夜間は職員の人数が少ない為、運営推進会議にて近隣の方をお願いし協力体制が築けており、火災時は隣にある神社が出入り口が1か所しかないので避難場所として利用するよう提案頂き、避難場所となっている。水害時訓練も追加し行っている。	消防署の立ち会いのもと、昼、夜を想定した避難訓練を昼2回、夜1回の年3回で実施している。職員は部屋割りでの担当を決め、スムーズな訓練が行えるよう努めている。水害時等は、近隣の方々の避難場所になっており、火災時には避難時のご協力を依頼している。備蓄の食料は3日分確保できている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対する接遇の研修を行い、意識付けをしているが、問題点が出た場合は、管理者・職員で話会い対応している。	入浴や排泄介助時は入居者の自尊心や羞恥心に配慮した声掛けや対応を徹底している。汚染時の更衣もできる限り個室対応し、その人らしい生活を支援している。不適切な言葉かけがあった時は職員間で声をかけ注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身に選んでもらえるような声掛けや状況を作る事で自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、強制する事なく本人の希望する事を尊重しながら1日1日をすごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は希望されるものを優先させるよう心掛けている。2カ月に1回のペースで訪問理美容に来てもらっており、事前に話し合い希望通りになるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や入居後にも利用者様と話をし、好みの物を把握する様に努め、食事は3食ユニット毎で調理し、盛り付け・後片付けを一緒におこなっている。旬の材料を準備し、季節のものを取り入れるようにしている。	食事は全て各ユニット毎に手作りされており、盛り付けや後片付けを一緒に行っている。外食の機会が少ないため、入居者の希望を聞きながらケイタリング等を利用し楽しみの機会を設けるよう努めている。入居者と職員は同じテーブルで楽しく会話をしながら食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立をもとに料理を提供している。食事量・水分量は時間毎に個別に記載し一人ひとりの1日の状況を把握している。また、Dr.とも相談の上でその方にあった摂取量が確保できるよう支援している。ミキサー・トロミ食の方も出来る限り同じ物を召し上がれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に緑茶でうがいをし、食後には口腔ケアを行っている。また、週に1回歯科の往診があり、必要な方・希望される方は診て頂いている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に24時間のシートを作成し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。	白十字の研修を受け、入居者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄とオムツ外しを支援している。また、リハビリパンツを利用されている方も布パンツに変更する等、オムツ類の使用を減らすよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、すぐ下剤に頼るのではなく、食事内容・水分補給・腹部マッサージ・温療法・運動に努めそれでも困難な場合は、Dr.に相談しDr.からの処方された薬を服用して頂いている。便秘の予防等の為ヤクルトを毎日飲んで頂いたり飲むヨーグルト・ヨーグルトを提供している。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り希望に添えるよう支援している。1対1での入浴の為入浴中に昔話等傾聴したり歌ったりして心身ともリフレッシュできるよう努めている。	週に2～3日の入浴を心がけ、柚湯等の季節を感じて頂ける工夫により、楽しんでもらっている。一対一の入浴により、職員と歌を唄ったり、日常生活の意向を聞き取ったりとコミュニケーションを図る場となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない=薬ではなく、一人ひとりの生活習慣等を把握した上で、休息や日中の活動時間を増やすなどして夜、安眠して頂くよう支援している。夜間対応して寝て頂いた時は申し送りし共有している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報については、薬情などで把握し服薬の支援を行っている。症状の変化があった時はすぐにDr.に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに合わせ、何かしらの役割を持って頂き、張り合いや喜びをもってもらえるように支援している。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を把握し、個別レクリエーションとして買い物など外出出来るよう支援している。またご家族様にも本人の思いをお伝えし、ご家族様に協力を頂くこともある。地域の方に歩行介助等の協力を得られている。年/1回にご家族も参加の日帰旅行を行っている。	その日の気分や体調、意向を確認し、買物や散歩を支援している。事業所の周辺の掃除や買物時に近隣の住民の方々から声掛けをいただき交流の機会が設けられている。外出を嫌がられる方や困難な方は、ベランダでの外気浴等で気分転換を図っている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いをお預かりし、一人ひとりの力に応じ、買い物の際にはレジにて清算して頂くよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とも打ち合わせをしており、電話を掛けたいと希望された場合、深夜早朝を除き電話を掛けさせて頂いている。遠方の家族様とは声が聴ける様電話を掛けて頂いたりかけたりしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の内装は、木を使い暖かみがあり、共有のスペースは南向きで窓も広く、居心地のよい空間と思われる。気候の良い時は、冷暖房に頼らず、窓を開け外気を取り込み、季節を感じて頂けるようにしている。『生活の場』である事を大切にしている。	共有空間は広い窓に面しており、ゆったりとしたソファで思い思いに過ごされている。ペランダでの散歩や野菜、花の水やり等を行い、生活を楽しんで頂いている。壁面には入居者と作成した季節を感じる飾り等があり、居心地の良い空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、複数のテーブル・ソファ等を設置し、状況に応じて自由に移動してご利用頂けるようしている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様とも話し合い、ご自宅で使用していた家具や寝具・小物・写真等出来る限り持参して頂き、見慣れた物に囲まれ、安心して居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。また日々の暮らしの中で作られた作品や写真等も飾っている。	入居前の生活に合わせた家具、仏壇や小物等を持ち込まれ、配置等を工夫し、過ごしやすい空間を提供できるよう心がけている。入居者が作成された季節の作品も飾られている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が既存のマークでわかりにくければその方が解るよう表示を行ったり、表示の高さを下げたり一人ひとりに合わせた支援が行えるよう工夫している。		

